



れんげ畑

～ 結 の 学 校 ～



7月号

ラジオから ながれているはずの 甲子園の歓声

私には ひまわりの中から 聞こえる 星野富弘

早いもので、1学期もあと20日余を残すころとなりました。1年生たちも学校に慣れたようで、笑顔で過ごす姿を多く見ることができました。

夏休みといえば、昔野球少年だった私は、扇風機を独り占めして、母親に叱られながら、甲子園で行われる全国高校野球に見入っていたことを思い出します。真っ黒になってチームの勝利に向かって全力を尽くす高校生の姿は、当時の私の心を熱くさせてくれるものでした。

上の句は、体育の先生だった星野富弘さんという方のもので、この句を知ってから、本当に甲子園の歓声がひまわりの中から聞こえるように思えたものでした。幼いころ、そして多感な頃に感じたことは、生涯にわたって影響を及ぼすものです。

6月の全校朝会では、「夢をもとう」という話をしました。朝会終了後の感想文では、結の子一人一人に自分の夢を書いてもらいました。

「医者・パイロット・電車の運転手」など昔から定番となっている夢と、「ユーチューバー・プロのゲーマー」など今ならではの夢も多く書かれていました。また、「助産師」という命を産み出す手助けをする夢や、「警察官になって平和を守りたい」という夢も書かれ



夢

ており、頼もしさを感じました。

ほっとしたのは、「学校や幼稚園の先生」と書いてくれた子が多かったこと。テレビ等で悪いニュースが多い中、将来になりたいという子がいたことをとてもうれしく思います。

子どものころは、夢を大きく広げていくことが、大切です。たくさんの夢のすそ野を広げることによって志（こころざし）高い夢につながっていきます。7月7日の七夕に向けて、子どもたちの夢を満載した笹を、本校の特色でもあるアトリウムに飾る予定です。吹き抜ける天窓から、織姫や彦星に子供たちの夢や願いが届くといいなと思っています。七夕

の夜、保護者の方の幼いころに見ていた夢やお子さんの夢について会話をすると、家族の絆も一層強まると思います。



1学期間、お世話になりました。1年で一番長い2学期もよろしくお願いします。結の子にとっても、保護者の皆さんにとっても、そして本校の教職員にとっても、素敵な夏休みとなりますよう、願っています。

永塚 壽一



30周年記念行事



2学期、結の子の思い出に残るよう、多くの記念行事を計画しております。その行事に向けて、実行委員の皆さんとともに、準備を進めています。詳細は裏面に掲載しています。ご覧ください。